

学校法人天理大学

平成28年度 事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科の名称および入学定員と学生数

【天理大学】

平成28年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
人間学部	宗教学科	40	180	153
	人間関係学科	80	320	350
	計	120	500	503
文学部	国文学国語学科	40	160	161
	歴史文化学科	50	200	180
	計	90	360	341
国際学部	外国語学科	180	700	607
	地域文化学科	180	720	744
	計	360	1,420	1,351
国際文化学部	アジア学科	募集停止	—	1
	ヨーロッパ・アメリカ学科	募集停止	—	0
	計	募集停止	—	1
体育学部	体育学科	200	800	879
総合計		770	3,080	3,075

【天理大学大学院】

平成28年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
臨床人間学研究科		8	16	16
体育学研究科		12	24	16
総合計		20	40	32

【天理高等学校】

平成28年5月1日現在

学部等	学科等	入学定員	収容定員	学生数
全日制課程(第一部)	普通科	※ 520	1,560	1,195
定時制課程(第二部)	普通科	※ 144	576	387
総合計		664	2,136	1,582

※全日制課程の募集人員は440名、定時制課程の募集人員は108名

【天理中学校】【天理小学校】【天理幼稚園】

平成28年5月1日現在

学 部 等	学 科 等	入学定員	収容定員	学生数
天理中学校		200	600	569
天理小学校		※ 125	750	549
天理幼稚園		50	200	122

※募集人員は約 110 名

以上、大学から幼稚園までの学生数の総計： 5, 929名

(2) 役員・教職員の人数

平成28年5月1日現在

部 門	役 員	教 員		職 員		計
		専任	兼任	専任	兼任	
法人	17			34	17	68
天理大学		143	207	90	65	505
天理図書館				34	15	49
おやさと研究所		7		2	3	12
天理参考館				22	8	30
天理高等学校(第一部)		76	1	30	91	198
天理高等学校(第二部)		29	3	21	46	99
天理中学校		35	3	4	17	59
天理小学校		29	2	5	2	38
天理幼稚園		15		2		17
合 計	17	334	216	244	264	1,075

2. 事業の概要

本法人は、天理教の信仰に基づき、「陽気ぐらし世界」の実現に寄与することのできる人材の育成を目指す「信条教育」を柱とする学校運営に努めてまいりました。

平成 28 年 1 月 26 日に教祖百三十年祭がつとめられ、次の塚へ向かって歩み出した本年度は、新たに深谷善太郎理事長が就任しました。また、本法人が設置する学校・附属施設においても、永尾教昭天理大学長、高見宇造おやさと研究所長、春野享天理参考館長、竹森博志天理高等学校長、島幹典天理中学校長、篠森靖治天理小学校長が新たに就任しました。

天理大学大学院については、宗教文化研究科宗教文化研究専攻（修士課程）の設置認可を文部科学省に申請していましたが、8 月 31 日付で正式に認可されました。また、大学の国際交流活動を包括し、国際交流協力事業を推進するために国際交流センターを設置しました。

建学の精神の徹底を図るべく、管内教職員全員を対象とした「信条教育講習会」は、深谷善太郎理事長を講師として、施設別に計 3 回開催しました。また、教職員の指針として策定された「めざす教職員像」のアンケートを全教職員に実施し、一人ひとりが常に信条教育を意識した取り組みがなされているかの自己点検・評価を行い、建学の精神発揚の一助としました。

教育現場で勤める教職員にとっては、研修が何より大切であることは申すまでもありません。各施設でも自主的な研修会を実施していますが、法人としても、人権教育推進研修会、新任者研修会、現職研修、公開授業研究会、スポーツ指導者講習会等を開催し、教職員の資質向上を目指しました。

学校評価については、学校運営検討委員会でその結果を検討し、法人と各学校・園の連携を図るとともに、課題等を共有し学校運営の改善・向上に努めました。

キャンパス整備については、緊急性等の高いものから改修・修繕等に取り組みました。また、施設のバリアフリー化、環境に配慮したエコキャンパスの推進、身障者用トイレの整備を行いました。施設・設備面の主なものとして、大学は、柚之内キャンパスでは、3、4 号棟前広場の整備、研究棟の空調設備更新、情報ライブラリーのトイレ改修、心光館食堂の空調設備およびトイレ改修、体育学部キャンパスでは、第 3 心光館（クラブハウス）の新築、6 号棟外壁・窓枠の改修、天理プール循環ろ過設備の改修、高等学校は、校舎の耐震診断を進め、南グラウンドの人工芝化および第 2 柔道場の屋根葺き替え、小・中学校は、耐震補強計画の策定を行い、教育・研究環境の改善に努めました。

学校経営をめぐる厳しい環境下にある本法人の財政基盤強化のために設立した事業会社「(株) キャンパスサポート天理」は、引き続き「施設管理業務」、「物品納入サポート」および「損害保険・生命保険代理店業務」を中心とした業務を行っています。機密文書の安全な廃棄やそのほかの産業廃棄物の処理業務等、コスト削減のための施策にも継続して取り組みました。

以下、平成 28 年度の各施設の主な事業内容を報告します。

【天理大学】

永尾教昭新学長が就任し、また、東馬場郁生新副学長の選任により、天理大学は新体制でスタートしました。学長のもとに創立100周年に向けての将来構想委員会が設置され、次

年度に迎える創設者中山正善天理教二代真柱50年祭の記念行事とあわせて計画に着手しました。また、文部科学省等からの施策に込えられるよう、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直しをはじめ、来る入試改革に着手すべくカリキュラムの抜本的な見直しや体制整備に着手しました。

＜大学改革＞

天理大学大学院については、文部科学省より宗教文化研究科宗教文化研究専攻（修士課程）の設置認可を受けました。

前年度に大学基準協会の認証評価を受審し、努力課題として指摘があった内部質保証システムの構築について、全学的な内部質保証システムの体制整備に向けて、「天理大学内部質保証に関する方針」を定め、「天理大学企画評価会議規程」と「天理大学外部評価委員会規程」を新たに制定し、「天理大学自己点検評価運営規程」と「天理大学自己点検評価委員会規程」の改正を行いました。

＜教育・研究＞

本年度の教員免許状更新講習は、奈良教育大学が開講申請者となり、本学は協力校として、8月23日に体育学部キャンパスで「保健体育科における教科指導」の選択領域1講座、8月24日に柚之内キャンパスで「学校教育の諸課題とカウンセリング」、「古文を面白くさせる『読み』」および「英語の多様性と国際性：英語成立の過程と世界の英語としての音声学」の選択領域3講座を開講しました。

研究支援関係については、本学における学術研究の信頼性と公正性を確保するため、新たに研究倫理（利益相反含む）関連の規程を制定しました。また、「天理大学における研究活動に係る不正行為の防止に関する規程」を改正し、国の定めるガイドラインに呼応できる体制を整え、本学教職員・学生の倫理感のさらなる向上に取り組みました。

学外研究助成等の活用としては、本年度の科学研究費助成事業の採択件数が、継続分を含めて研究代表者分が27件（内3件が延長）、研究分担者分が26件で合計53件となり、過去最高の採択件数となりました。また、単年度の採択率としても初めて50%を超えました。

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の研究公募に、本年度も1件採択され、教員個人が取り組んだ学外研究者らとの共同研究も3件ありました。

マルチメディア教室やCALL教室をはじめとする各種教育設備の管理運営に関しては、業務を一部外部委託し、情報システムおよび教育機器利用の支援をより充実したものにしました。

また、「天理大学情報ライブラリー規程」を制定し、情報ライブラリーの学内における位置づけを明確にするとともに、本学専任教職員と業務委託業者が連携して専門性の高いサービスを提供することを明記しました。

「天理大学学報」第68巻第1号～第3号（通巻第243輯～第245輯）を発行しました。

人間学部人間関係学科生涯教育専攻では「天理大学生涯教育研究」（第21号）を、人間学部人間関係学科社会福祉専攻では「天理大学社会福祉学研究室紀要」（第19号）を、国際学部外国語学科中国語専攻では「中国文化研究」（第32号）を、国際学部言語教育研究センターでは「外国語教育—理論と実践—」（第43号）を発行しました。

大学院生の増田たまみ（体育学2年）と吉田寿（体育学2年）は、8月24日から26日までの

間、大阪体育大学で開催された日本体育学会第67回大会の測定評価専門領域において、体育学部中谷敏昭教授の共同研究者として優秀発表賞を受賞しました。

大学院生の吉本陽亮（体育学2年）は、10月22、23日に本学で開催された身体運動文化学会第21回大会にて、若手奨励賞を受賞しました。また、3月28、29日に東洋大学で開催された日本スポーツ人類学会第18回大会にて、研究奨励賞を受賞しました。

＜学生支援＞

学生支援については、平成28年4月からの「障害者差別解消法」の施行を受けて、学生支援課に「特別支援室」を設け、より充実した支援体制の整備を行いました。

6月15日に「薬物乱用防止および交通マナー講習会」を実施しました。薬物乱用防止のDVD上映のほか、交通マナーについて、天理警察署交通課の指導員による講習等を、各クラブの役員が受講しました。

また、7月7日、8日の2回に分けて「事故防止講習会」を開催しました。看護師による熱中症予防対策についての説明の後、ミニアンキッドを用いての心肺蘇生法実技やAED（自動体外式除細動器）使用についての講習を行い、各クラブ役員等多数の学生が受講しました。

大学祭期間中の11月5日に日本年金機構（桜井年金事務所）がブースを設け、年金の説明や猶予の事務手続き、また、質問に対するの回答等を受けました。

＜課外活動＞

合気道部は、全日本学生合気道競技大会の男子乱取団体戦で連覇し、演武男子対徒手で津谷朋宏（生涯4年）・樋口諒祐（体育4年）組が優勝しました。

空手道部は、全関西大学空手道選手権大会の団体（組手）で男子が9年ぶりに準優勝し、女子が2年連続で準優勝しました。

弓道部は、女子が全日本学生弓道選手権大会の団体戦で初優勝。全日本弓道遠的選手権大会では、男子個人戦で脇田政宏（地域2年）が、女子個人戦で宮本佑香（国文1年）が優勝しました。

水泳部は、木野和樹（体育4年）が男子50m自由形の種目で、関西学生選手権水泳競技大会で優勝、日本学生選手権水泳競技大会で第4位、JAPAN OPEN 2016で第6位入賞しました。

創作ダンス部は、アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ2016で、高岡市長賞を受賞しました。

ソフトテニス部男子は、関西学生ソフトテニス秋季リーグ戦で準優勝。西日本学生大学対抗ソフトテニス選手権大会の男子シングルスで高津健介（体育3年）が準優勝しました。

ソフトテニス部女子は、西日本学生大学対抗ソフトテニス選手権大会の団体戦で10年ぶり12回目の優勝をしました。

柔道部男子は、関西学生柔道優勝大会の団体戦で優勝しました。個人戦では、リオデジャネイロオリンピック73kg級で大野将平（大学院体育）が、東アジア柔道選手権大会73kg級で山本悠司（体育3年）が優勝しました。関西学生柔道体重別選手権大会で、60kg級で中原諒人（体育3）、66kg級で野村琢真（体育2年）、73kg級で山本悠司（体育3年）、81kg級で北浦大基（体育4年）、90kg級で具志堅一弘（体育4年）、100kg超級で西尾徹（体育3年）が優勝しました。

ホッケー部男子は、全日本男子ホッケー選手権大会で2年連続22回目の優勝をし、全日本大学ホッケー王座決定戦、高円宮杯2016男子ホッケー日本リーグでも優勝しました。

ホッケー部女子は、関西学生ホッケー秋季リーグ戦で4季連続63回目の優勝をしました。

ラグビー部は、関西大学ラグビーAリーグで4年ぶり8度目の優勝をしました。

国際学部外国語学科中国語専攻では、松永好徳（1年）が全日本中国語スピーチコンテスト全国大会朗読部門（日本中国友好協会主催、大学生・大学院生の部）において最優秀賞を受賞し、門脇理教（2年）が全日本学生中国語弁論大会（京都外国語大学主催）において、上位3人に贈られる京都外国語大学総長賞を受賞しました。また、本多久平（4年）が中国語スピーチコンテスト（立命館孔子学院主催、大学生を含む一般の部）において最優秀賞を受賞し、波多優作（2年）がJAL中国語スピーチコンテスト（日本航空株式会社、日華青少年交流協会主催）において優勝しました。

国際学部外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻では、南川遙（2年）が全国スペイン語弁論大会（本学主催）において優勝しました。

国際学部外国語学科スペイン語・ブラジルポルトガル語専攻では、11月18日、外国語劇2016「ドン・キホーテ」の特別公演を天理市文化センターにおいて行いました。

「こどもおちばがえり」ひのきしんには、期間中の出演およびスタッフとして300余名の学生が参加しました。また、「お節会」ひのきしんには、3日間に硬式野球部、ホッケー部、ようぼく会、成人会、留学生等から200余名の学生が参加しました。

<災害復興支援>

4月の熊本地震発生を受けて、学生代表を構成メンバーに含めた「天理大学災害救援チーム」を設置し、熊本地震の被災地支援ボランティアを、7月1日から4日の日程で、大きな被害を受けた熊本県上益城郡益城町と阿蘇郡西原村で実施しました。学生自治会・学科会・学寮の各代表の学生15名、教職員8名の総勢23名が参加しました。

第2回目のボランティア活動は、9月11日から14日の日程で、大学からの公募に応じた学生有志24名、教職員13名の総勢37名が参加し、熊本県上益城郡益城町と阿蘇郡西原村で実施しました。

これまで2回のボランティア活動の場所となった益城町立広安西小学校から、PTA主催イベント「広西・親子あったか教室」の講座開催の依頼があり、1月27日から29日の日程で、学生4名、教職員2名が参加し、関西のお笑いを伝授する講座を開催しました。

<エコキャンパス関係>

例年同様冷暖房の設定温度（夏は28℃、冬は19℃）の周知を図るとともに、5月1日から10月31日をクールビズ期間として周知しました。

また、(株)キャンパスサポート天理の協力を得て、機密性の高い書類を中心とした使用済み紙の溶解処理を行うための回収を、5月25日と11月30日の2回行いました。

天理大学エコキャンパス実行委員会の活動として、NPO法人環境市民ネットワーク天理と連携し、11月25日から27日、天理環境フォーラム2016で環境展パネル展示とフリーマーケットを行い、フリーマーケットの売り上げは、NPO法人環境市民ネットワーク天理へ寄付しました。また、布留川清掃、ホテル観察会、ブルーベリー狩り、落葉かき、農園でのみかんの木の剪定等のNPO法人の活動にも参加しました。

<国際交流>

大学の国際交流活動を包括し、国際交流協力事業を推進すべく国際交流センターを設置しました。

9月27日にインドネシアのリア外国語大学と2月14日に中華人民共和国マカオ特別行政区所在のマカオ大学とそれぞれ協定を締結し、これにより海外交流協定校は22カ国（地域）45大学となりました。

学生交流については、協定校から57名の短期（交換）留学生を受け入れ、本学からは交換留学生として50名、認定留学生として26名の計76名の学生を派遣しました。また、海外インターンシップ制度により、アメリカ・ニューヨークへ2名、カナダ・バンクーバーへ2名、フランス・パリへ2名、ドイツ・ケルンへ1名、ウクライナ・キエフへ1名、タイ・バンコクへ1名、インドネシア・バリへ1名、海外スポーツ型インターンシップとしてスイス・フリブールへ3名、計13名の学生を派遣しました。

また、外務省推進事業の一つであるJENESYS（対日理解促進交流プログラム）主催の「日本のなかの韓国文化」学生調査団（釜山大学校25名、内教職員3名、天理大学15名、内教職員2名）の招聘事業（8月下旬）および「韓国のなかの日本」学生調査団（天理大学27名、内教員3名）の派遣事業（2月下旬）の双方を通して釜山大学校生との有意義な交流を行い、さらには同JICE（一般財団法人日本国際協力センター）主催の「カケハシ・プロジェクト2016」（12名、内教員1名）の派遣事業（1月上旬～中旬）を通して、アメリカ・シアトルの小・中学生との活発な交流を行いました。

29回目の天理大学夏期日本語講座を、7月8日から20日までの間、8カ国（地域）の協定校から69名の受講生を迎えて開催しました。受講生は、日本語学習以外にも、カウンセラーとして参加した本学学生や体験したクラブの学生と短期間ながら有意義な交流を行いました。

<入試>

来年度入学者選抜は、国際学部の改組に伴い、これまでの日本語専攻に変わり、地域文化学科日本研究コースとして選抜を実施しました。大学院では、来年度開設予定となる宗教文化研究科が春期において新たに選抜を実施しました。また、体育学研究科では、秋期と春期に推薦を加えて3回の選抜を実施しました。

入試広報活動については、各地区の入試相談会や高校内ガイダンスのほか、7月、8月、9月の3回のオープンキャンパスおよび大学祭期間中の入試相談会に加え、3月にも3回目となる春のオープンキャンパスを開催しました。

天理教教会本部月次祭が執り行われる毎月26日に、天理本通りの「てんだりーcolors」において入試相談会を開催しました。

また、人間学部では、10月10日、オープンキャンパスとは違い、普段の大学と授業を体験してもらう企画としてオープンスクールを開催しました。

<広報>

パブリシティについては、新学長を迎えた創立記念行事や学生、教職員の活動紹介、リオオリンピック関連情報や、柔道・大野選手のリオオリンピック優勝パレード、教員の研究成果等をプレスリリースしたほか、マスコミからの取材に関する連絡調整・実施協力等を行いました。

大学広報誌「はばたき」は第 35 号から第 38 号を発行しました。主な内容としては、学長の就任と東馬場副学長の選任、リオオリンピック・パラリンピックの話題や、柔道・大野選手の金メダル獲得、キャンパス整備の様子等を掲載しました。

広報紙「TSUNAGARU」第 3 号と第 4 号、リオオリンピック特集号（号外）を発行しました。在学生や保証人へ配付したほか、入試広報にも活用しました。

大学要覧関係については、「2017 大学案内」、「大学院体育学研究科案内」を改訂しました。また、平成 29 年 4 月から始まる日本研究コースのチラシ、「日本研究コース案内」（5 カ国語）、「大学院宗教文化研究科案内」を作成しました。そのほか、「天理大学創設者の理念と未来への飛躍」DVD2017 年改訂版を作成しました。

Web サイト関連については、大学公式ホームページや Facebook により、学生のスポーツや語学大会での活躍、教員の研究成果等、さまざまな情報発信を行いました。また、過去の情報をファイリングしてまとめる作業を行いました。

<就職支援>

滋京奈地域のインターンシップ等を通じて滋京奈地域16大学、地元経済団体およびインターンシップを推進する組織と連携し、学生と企業とのマッチングや専門人材の養成に向けた取り組みを進めました。

10月から12月にかけて学内で業界研究セミナーを開催しました。16の各業界より人事担当者を招き、業界全体の魅力や仕事のやりがい等について説明いただき、早期の段階での業界研究を行いました。

3月の就職活動のスタートに学生が出遅れないように、マイナビが主催する大規模な合同企業説明会にバスを仕立て、学生の参加を促しました。また、3月10日と13日から15日の4日間で、企業の人事・採用担当者を大学に招き、学内企業説明会（官公庁を含む）を開催しました。参加企業は199社、約690名の学生が参加しました。

<施設・設備関係>

懸案であった研究棟の空調設備を入れ替えました。また、3、4号棟前広場の改修や、3号棟出入口および心光館食堂出入口を自動扉に改修し、車いす等でのスムーズな移動が可能になりました。情報ライブラリーおよび心光館1階の男女トイレを改修しました。3号棟1階事務室の窓を二重窓に改良しました。

学修環境改善の上から、3号棟3階教室、研究棟4階東側演習室3室および7号棟教室・演習室の学生用机・椅子を入れ替えました。4号棟の教室において車椅子での出入りが困難な17カ所の扉を改修しました。2号棟24A、24B教室、研究棟3階第1会議室～第3会議室および心光館食堂をLED照明に改修しました。3号棟2、3階廊下・階段壁面の塗装および4号棟2、3階教室床面の樹脂塗装を行いました。

体育学部キャンパスについては、クラブハウスを建て替え、6号棟屋根・壁の補修工事および窓枠の改修を行いました。

情報システム関係については、体育学部キャンパスPC自習室のパソコン（24台）や学生ホールのパソコン（柚之内4台、体育学部4台）を経年劣化のため入れ替え、iCAFéへパソコン（2台）を新設、3号棟マルチメディア教室（12教室）や研究棟演習室（12教室）のスイッチャー（24台）をデジタル化のため入れ替え、大学院宗教文化研究科開設に向けたパソコン導入への対応、情報ライブラリー事務用パソコンを入れ替え、設備の安定と標準化

を進めました。柚之内キャンパス心光館および健康管理室方面への光ケーブルによる延伸、体育学部キャンパスおよび天理中学校方面へのNTT光ケーブル直結線による延伸、体育学部キャンパス第3心光館へのサージ対応ツイストペアケーブルによる延伸等、ネットワークエリアの安定化と拡大を行いました。また、無線LANにおいても、柚之内キャンパス心光館、体育学部キャンパス第3心光館、大学院宗教文化研究科への新設、情報ライブラリーへの増設を行い、無線エリアの拡大を進めました。Windows10等最新システムの普及が進み、教員からICT機器のサポート件数や対応種目の増加が見込まれるため、教育支援課分室内にICTヘルプデスク（契約常駐員）を開設し、パソコントラブル対応の充実を図りました。

学生や教職員の本学最新情報共有化を促進するために、デジタルサイネージシステム（電子広告・掲示板）を導入し、初期3カ所への設置（次年度より増設）を行い、運用を開始しました。

教育ICT技術は進歩と普及を加速させる中、データベース保全、ネットワーク安定化、セキュリティ保証等、これら安心のための担保（設備面、技術面）が重要な課題となっており、この担保充実のために、今後のサーバー室拡張や移設等を視野とした計画策定を開始しました。

<地域貢献>

前年度からスタートした「天理市行政施策貢献制度」については、天理市役所での認定式において、7月15日に2名、1月18日に6名の学生に、天理市長から認定書が交付されました。認定を受けた学生は、「市民映画会」への協力、「てんりスマホサミット2016」のワークショップに参加した市内学生への助言・支援、「てんりミュージックストリート」、「てくてくてんり『秋』ウォーキングフェスタ」での活動を行いました。

選挙権が18歳に引き下げられ、大学生全員が選挙権を持つことになりました。これを受けて天理市選挙管理委員会から期日前投票所の設置依頼を受け、6月30日と7月1日にふるさと会館1階会議室に開設しました。

リオオリンピックに出場した柔道・大野選手を応援するパブリックビューイングを、8月8日の夜から8月9日の明け方にかけて、天理市産業振興館で開催し、多くの市民の方々の応援により見事金メダルを獲得しました。

相互連携を結んでいる明日香村とは、韓国・朝鮮語専攻が専門科目で現地実習を実施した際に、明日香村の方々に直接ガイドをしてもらい、事後に明日香村へのレポートで協力を行いました。また、飛鳥ニューツーリズム協議会からの依頼に応じて、修学旅行で明日香村を訪れる中学生に、本学の学生たちが歴史ガイドツアーを実施しました。

天理市、大和郡山市との連携のもと、学生派遣による不登校支援を行いました。また、なら犯罪被害者支援センターとの提携により、来所相談者を受け入れ、学生の実践的教育研究を実施しました。

国際学部外国語学科の中国語専攻とスペイン語・ブラジルポルトガル語専攻は、11月12日、ワールドフェスティバル天理2016においてブース出店と舞台出演を行いました。

「生涯教育特論7」（生涯学習と経営）の授業の中で、学生らが天理産素材にこだわって市内の事業者らと開発した新商品を、1月26日、「てんだりーcolors」にて限定販売しました。

人間学部人間関係学科社会福祉専攻では、11月25日、奈良県の「虐待防止のためのオレンジリボンキャンペーン」の活動に協力し、オレンジリボン1800個を市民に配布するなど、啓発活動を行いました。

＜高大連携＞

4月25日、奈良県立西の京高等学校地域創生コース3年生39名が来学。古墳文化の講義を受講し、キャンパス周辺の古墳と天理参考館を見学しました。また、10月4日、奈良県立法隆寺国際高等学校歴史文化科2年生39名が来学。民俗学実習を受講し、キャンパス内の歴史的建造物を見学しました。

＜そのほか＞

天理大学ふるさと会（本学同窓会）との連携により、「第7回天理大学ホームカミングデー」を大学祭期間中の11月5日に開催し、約250名の卒業生、教職員が集い、盛会裏に終えることができました。

人権教育関係については、ヒューマンライツ助成制度による各学部・学科、各部局、学生の自発的な人権啓発活動を継続して行いました。

【天理図書館】

貴重資料・学術資料の収集・整理・保存に努め、善用を心掛けました。

整理については、インターネット上での本館所蔵資料の検索が可能となるように新収資料を随時公開しています。また、本年度は、昭和5年に開館して以来、同57年までに整理・収蔵された一般図書のカード目録遡及に5カ年計画で取り組んだ最終年度となりました。和漢古書12,353冊(3,512点)を含む53,709冊を入力し、5年間で和漢古書49,889冊(16,791点)を含む479,454冊の入力を完了して、カード目録遡及全体の85%を終え、一定の成果を上げました。特に和漢古書の遡及入力、古典籍資料を多く所蔵する本館の使命であり、学界各方面の利用に供しサービスの向上に繋がりました。

閲覧については、開架書架の図書を絶えず新整理図書と入れ替える等、見直し作業を行っています。貴重書（近世文書を含む）は、2,388冊（270名）の閲覧がありました。

見学については、天理教教会本部、天理大学、天理教道友社等からの来客が、352名（23件）あり、閲覧室、一般書庫、常設展示を案内しました。

掲載については、254件の申請があり、教科書、学習参考書から学術書、大学紀要類、テレビ放送に至るまで本館所蔵資料が利用されました。

資料保存については、国宝『類聚名義抄』をはじめ、貴重資料を修復し、閲覧・複製等の利用に供せられるようになりました。

本館所蔵資料を広く一般に公開する上から、展覧会や講演会を開催しています。館内展として、開館86周年記念展「御伽草子－奈良絵本・絵巻を中心に－」を10月19日から11月6日まで開催し、1,175名の来場者がありました。会期中の10月22日には、石川透氏（慶應義塾大学教授）による記念講演「御伽草子の世界」、肥後琵琶奏者玉川教海師による琵琶語り「小栗判官」を開催し、128名の来場者がありました。

館外展として、天理ギャラリー第158回展「蕪村－生誕三百年を記念して－」を5月15日から6月12日まで開催し、852名の来場者がありました。会期中の5月21日には、清登典子氏（筑波大学教授）による記念講演「新出資料に見る蕪村俳諧の世界」を開催し、123名の来場者がありました。

出版活動については、天理図書館報『ビブリア』第145号（5月刊）、同第146号（10月刊）のほか、開館86周年記念展、天理ギャラリー第158回展それぞれの展覧会図録を出

版しました。前年度から刊行が始まりました『新天理図書館善本叢書』(全5期36巻)は、第7回から第12回までを配本しました。

対外的な活動については、奈良県図書館協会大学・専門図書館部会の加盟館として県内の大学・専門図書館と連携、協力を図っています。また、同協会地域資料研究会から委員委嘱を受け、地域資料について、調査・研究、情報の共有化を図っています。

施設・設備面については、正面玄関付近外壁黄竜石の雨水浸食による風化対策工事のほかに、漏水対策として西館屋上土間補修工事、西館書庫4階換気口の水切り取り付け工事、駐車場のライン引き工事を行いました。館内外の日々の清掃はもとより、曝書期間を利用して、正面ホール、廊下、階段、休憩室等の清掃・ワックスがけを行い、環境美化に取り組みました。

【おやさと研究所】

公開教学講座は、「現代の事情に対する天理教の思案－教えと実践、天理教学からの視点」を統一テーマとして、天理大学研究棟第1会議室にて、9月から3月まで毎月25日に全7回開催しました。その要旨は、「グローバル天理」、「天理時報」に掲載しました。また、公開教学講座開催に先立ち、それぞれのテーマについての勉強会を行いました。次に、現代社会の問題に対応できる人材養成を目的とした「教学と現代」は、年祭後の活動を意識し、前年度より「これからの社会と天理教」として3年間にわたり公開で開講しました。第2回の本年度は、『『家族問題』－たすけ合いの社会をめざして』をテーマとして、家族を支える社会福祉の制度や援助の仕組み、また天理教のたすけ合いの実践およびその可能性について考える講座を開催しました。

研究報告会は毎月1回開催(291回～301回)し、研究所の研究員だけでなく、学内外研究者の研究、および調査の報告を行いました。また、伝道研究会(第63回)では、2月8日に台湾伝道庁の活動報告を行い、天理教海外部員よりお話を伺いました。

出版物は、月刊誌「グローバル天理」、年刊の「Tenri Journal of Religion」45、「おやさと研究所年報」23、および「伝道参考シリーズ」30、31、32を発行しました。『改訂 天理教事典』の再改訂は、平成29年11月発行を目標に本年度も編集作業を行いました。

【天理参考館】

博学連携の充実を図るため、管内各学校や天理市内の小・中学校への当施設利用促進の働きかけを行い、市内小学校教員を対象とした初任者研修を開催しました。また、単に展示資料の見学案内だけでなく、学校教育充実の一助となるような取り組みも行いました。

企画展「大和名所絵図めぐり－一枚刷りに見るふるさとの風物－」(4月～6月)、「天理サファリランド－シルクロードの動物と動物意匠の世界－」(7月～9月)、「東北地方の玩具たち－東日本大震災を忘れない－」(10月～11月)、新春展「紙で遊ぶ世界－折紙とおもちゃ絵－」およびスポット展「震災復興展示－民俗と歴史－」(平成27年7月～)、「イスラエルのテル・ゼロール遺跡」(平成27年7月～2月)、「五月人形」(4月～5月)、「雛人形」(2月～4月)等を開催しました。また、天理ギャラリー第159回展「古代東アジア馬ものがたり」(10月～12月)、第160回展「いのりのかたち－キリスト教と民間信仰－」(2月～4月)を開催しました。

企画展関連イベントとして開催した講演会（5回）、ワークショップ（1回）、伝統こけし工人によるろくろ挽きと絵付け実演（2回）、ギャラリートーク（展示解説／8回）は好評でした。

このほか、トーク・サンコーカン（公開講演会／7回）、長月講座「常設展示『世界の生活文化』コーナーを深く知ろう」（全3回）、早春講座「天界へのかけはし」（全3回）、ワークショップ「バリガムラン体験講座」、「クラシックギター講座」、「折紙を楽しもう」、「こどもおちばがえりイベント」、お役立ち夏休み自由工作3「折紙で動物園を作っちゃおう！」を開催しました。

シンポジウム「正倉院宝物白瑠璃碗の源流を探る－ササン朝ペルシア・ガラス研究の最先端」（平成28年度天理大学 学術・研究・教育活動助成＜一般学術・研究・教育活動助成＞による）を開催しました。また、ミュージアムコンサート「参考館メロディユー」（天理教音楽研究会共催／12回）を継続して開催しました。

1階エントランスホールには「ようこそ！山の辺コーナー」を設け、「My 山の辺の道 Four Seasons」、「天理に伝わる昔話」、「山の辺の道クイズ」を、市内5カ所で同時に開催しました。

平成21年度から始めた寄贈資料の整理、登録業務を進めました。通常業務としては、生活文化・考古美術資料の収蔵品および研究用図書の充実を図り、資料の調査・研究、整理、修復・保存処理を行いました。

出版物については、『天理参考館報』、『企画展図録』、『天理参考館ニュースレター』を刊行しました。

平成28年度文化庁文化芸術振興補助金事業に「天理山の辺の道の歴史遺産を学ぶ」が採択され、天理の古墳文化を学ぶための教本等を作成したほか、山の辺の道に関わる歴史についての連続講座（6回）、遺跡ウォーク（4回）、ワークショップ「ちびっこ『はにわづくり』に挑戦」、「『はにわ』再現－陶芸家と埴輪作り」等の各種イベントを開催し、好評でした。

広報としては、前年4月にホームページのリニューアルを行い、情報発信のさらなる内容充実に努め、情報誌、マスコミへの情報提供、各種ポスター、ちらし等を発行し、館活動の情報発信を継続するほか、広報活動の充実を図りました。

そのほか、資料熟覧、資料写真掲載・映像取材等の協力を行い、また、来館者に喜んでいただけるような親切な接客、博物館情報の提供、館内の美化等に取り組みました。

【天理高等学校第一部（全日制）】

本年度の「こどもおちばがえり」ひのきしんには、7月15日から24日までの準備期間に201名の生徒が、7月25日から8月5日までの本期間に551名の生徒が参加しました。また、夏の「学生生徒修養会高校の部」には自宅生27名が参加しました。「天理教少年会育成講習会・天理高校生の部」には、85名の生徒が参加し、子どもたちと接することの喜び、縦の伝道の大切さを学びました。そして、3年生395名全員が1月に「おさづけの理」を拝戴しました。

教職員研修については、6月29日に天理教主査室鈴木正一氏より「カルト宗教・マルチ商法」について講演をいただき、また、11月30日には、鳴り物とおてふりの練習を行いました。

教員個々が共通の認識を持って、生徒指導や進路指導に取り組めるよう、また、性的マイノリティーや障害者に対する差別の克服、アンガーマネジメントに関する研修を、生徒指導部・信条教育部・人権教育部・学芸体育部等が企画し 7 回にわたって行いました。また、教科指導の充実を図るため、6 月と 11 月に授業研究会を実施し 17 名の教員が研究授業を行いました。また、管外の研修へも多くの教職員が参加しました。

学校評価については、全教職員に対して記名式の評価（自己評価）を実施しました。これに生徒による評価を加え、学校としての在り方や生徒の実態を分析するとともに、学校評価の目的に相応しい取り組みができるよう、各分掌で成果と課題を整理し、次年度に向けた方策を示しました。なお、保護者による学校評価の実施については、寮生が多い状況を見据えながら、検討していくことになりました。

進学・学習指導については、特に 1 類での講習の充実を図るため、申し込み時に保護者の署名を得ることや、講習受講の状況を保護者に報告することを行いました。また、大学入試準備講習（1 年）と国公立対策講習（2 年）で、卒業生による講演会・座談会を初めて行い、好評でした。2 類については、模試に関して、志望大学ごとのオープン模試や実戦模試へのチャレンジも促し、模試データの活用にも工夫を加えました。また、進路講演会としては、業者の進学講演に加え、卒業生による講演を実施しました。卒業生の講演は、1 類と同様、生徒の関心を集めたように思われます。センター試験には全類合わせて 85 名が出席しました。

本年度も通常の課外講習に加え、夏季・冬季講習、合宿勉強会、特設課外講習、土日を利用しての補習やセンター試験対策を行いました。また、2 類の生徒が中心ではありますが、合宿勉強会を滋賀県高島市にて行いました。総勢 105 名（前年度 130 名）が参加し、1 日 10 時間以上の学習に取り組みました。

進学実績については、2 類からは大阪大学をはじめ、東北大学、静岡大学、広島大学、高知大学、和歌山大学、茨城大学、京都教育大学、香川大学等の 11 校の国公立大学に 15 名が合格しました。2 類現役生 56 名のほぼ 4 人に 1 人が国公立大へ進学しました。さらに、同志社大学（2 名）をはじめ、関西大学（2 名）、関西学院大学（1 名）、近畿大学（5 名）、京都産業大学（4 名）、龍谷大学（2 名）等、多くの私立大学に延べ 57 名が合格しました。1 類からは長崎大学、東京芸術大学、三重大学、京都市立芸術大学、愛媛大学、下関市立大学の国公立大学に 6 名が合格、進学しました。3 類からは法政大学、明治大学、同志社大学、関西大学、京都産業大学、龍谷大学、甲南大学をはじめ、私立大学を中心に進学しました。学校全体で、国公立大学をはじめ、天理大学（105 名）、天理医療大学（30 名）、天理教専修科（13 名）やそのほかの私立大学（162 名）、短期大学、専門学校等に、延べ 415 名が合格しました。

クラブ活動については、全国高等学校総合体育大会において、65 年連続出場の柔道部男子は、団体戦と個人戦 6 階級に出場しました。団体戦は第 3 位に入賞し、個人戦では 81kg 級の笠原大雅（3 年）が優勝、100kg 超級の田中慎太郎（3 年）が第 5 位に入賞しました。柔道部女子も個人戦 3 階級に出場し、57kg 級の丸山佳代（2 年）が第 5 位に入賞しました。45 年連続 45 度目の出場ホッケー部男子は、13 年ぶり 6 度目の優勝を飾り、春の選抜と合わせて 2 冠を達成しました。6 年連続 26 回目の出場ホッケー部女子は、ベスト 8 に進出しました。バレーボール部男子は、2 年ぶり 5 度目の出場でしたが、予選グループ戦で敗れ、敗者復活戦でも敗れました。水泳部は、競泳の部に男子 8 名と女子 1 名が、飛び込みの部に女子 3 名が出場し、男子では 100m 自由形で勝岡篤史（2 年）が第 4 位、100m 背泳

ぎで安井健斗（3年）が第5位、女子では200m バタフライで五島実咲（1年）が第4位に入賞しました。

軟式野球部は、全国高等学校軟式野球選手権大会に5年ぶり14回目の出場をし、悲願の初優勝を遂げました。初戦から準決勝まで3試合連続の延長戦を制し、決勝では早稲田大学高等学院（東京都）に完勝しました。

国民体育大会において、水泳部は、少年A100m自由形で勝岡篤史が第7位、同200m背泳ぎで安井健斗が第7位、少年少女A200mバタフライで五島実咲が第2位に入賞しました。軟式野球部は、2度目（単独では初めて）となる優勝をし、夏の選手権と合わせて2冠を達成しました。春の近畿大会県予選・近畿大会、夏の県大会・近畿地区予選・全国選手権大会、国民体育大会、そして、新チームになっての秋の県大会・近畿大会と、本年度すべての公式戦22試合に全勝負け知らずという快挙を成し遂げました。

全日本バレーボール高校選手権大会に、バレーボール部男子が5年ぶり6度目の出場をしましたが、初戦で、東洋高校（東京都）にセットカウント0対2で敗れ、悲願の全国大会1勝はなりませんでした。

春の選抜大会では、柔道部男子が、全国高等学校柔道選手権大会に出場しましたが、団体戦・個人戦ともに上位進出はなりませんでした。ホッケー部は、全国高等学校選抜ホッケー大会で、男子は準決勝で飯能南高校（埼玉県）を下した後、決勝で山梨学院高校を4対3で破って、2年連続10回目の優勝。女子は優勝した丹生高校（福井県）に敗れましたが、第3位に入賞しました。ラグビー部は、近畿第5代表として選抜大会に出場しましたが、予選リーグ2勝1敗の第2位となり、決勝トーナメント進出はなりませんでした。

文化系クラブでは、吹奏楽部が全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜に16年連続で出場し、連盟理事長賞を受賞しました。美術部は、学展において、藪内あかね（3年）が最終選考の31名に残り入賞を受賞し、矢谷祥代（3年）が3次選考まで残り、賞候補入選となりました。また、全日本学生美術展において、矢谷若菜（1年）が最終選考の6名に入り、推奨を受賞しました。弦楽部は、日本学校合奏コンクール（アンサンブル高校生部門）において、金賞と文部科学大臣賞（第1位相当）を受賞しました。バトン部は、バトントワーリング全国大会に3年連続13回目の出場をし、前年度に引き続き金賞を受賞しました。ダンス部は、全日本高等学校チームダンス選手権大会に、関西予選会第2位の成績をもって出場し、出場29校中第12位の結果を残しました。

施設面については、前年度から行われていました南グラウンドの人工芝敷設工事が完了しました。

【天理高等学校第二部（定時制）】

本年度も、「こどもおぢばがえり」ひのきしんには、全ての生徒・教職員が参加しました。東西の両泉水プールと天理小学校のプールでのひのきしんのほかに、吹奏楽部の3、4年生は「こどもミュージカル劇場」に全期間出演しました。また、正月の「お節会」も例年同様に生餅掛と第4会場での接待ひのきしんを勤めました。

3月12日には3年生98名が「おさづけの理」を拝戴し「ようぼく」となりました。

5月には、奈良県からの要請を受け、4年ぶりに奈良県障害者スポーツ大会陸上競技の補助員として、運動系部活動の2年生から4年生の生徒162名とその顧問がボランティア活動に参加しました。

5月6日には、選挙権年齢18歳への引き下げに伴い、全生徒を対象に、選挙管理委員会から講師を招き出前授業を行いました。

5月10日には、生徒会が「熊本地震」に対する募金活動で得た義援金を天理教道友社へ届けました。

教育課程については、現行教育課程への対応として、夏の教育課程研究集会や教科ごとの学習指導研究会等に多くの教員が参加し研修を行いました。校内においては、教科ごとの授業研修も定着してきており、公開授業を通して、教員相互で研鑽を積み、わかりやすい授業の工夫に努めました。

進路保障と基礎学力の向上を目的として、毎学期末に「基礎講習」(1、2年生対象)と「進学講習」(3、4年生対象)を実施しました。また、従来、希望者を対象に実施していた校内模擬試験に代えて、3、4年生を対象に学習意欲の向上に向けた校内学力テスト(英・国・数)を年2回実施しました。実施初年度ということもあり、いくつかの課題も見えたことを受け、検討を重ねながら、毎年の実施を目指していきたいと考えています。

生徒理解、情報交換、連携をはかる上から、本年度も年度当初にクラス担任による個人面談を実施し、個々の生徒の理解に努めました。また、6月と10月の年2回、いじめに関するアンケートを実施し、学校・学寮懇談会や「つとめ先訪問」等といった関係各所との情報交換を実施することで、各方面とも連携しながら、いじめの未然防止、早期発見に努めました。

年2回実施している保護者懇談会には多くの保護者が来校されました。また、年2回実施しているオープンスクールにも多くの方が来校され、授業や部活動の見学、学校説明会・個別相談会に参加くださいました。

学校評価については、例年と大きな変化はなく、オープンスクール時の来校者アンケートの評価も良好でした。しかし、まだ課題もあり、学校評価の評価項目については、今後見直しを含めて検討していきたいと思えます。

安全教育については、5月に交通事故防止と自転車乗用マナー向上のため、天理警察署の交通安全課長よりお話を伺うとともに、年間を通して一斉下校日には教員による下校指導を行いました。

部活動については、夏の全国定時制通信制体育大会に8競技112名の選手が出場しました。団体戦では、軟式野球部が10年連続13回目の優勝、バスケットボール部女子が9年連続17回目の優勝、バドミントン部女子が3年ぶり3回目の優勝、卓球部女子が4年ぶり20回目の優勝を飾りました。バスケットボール部男子、バレーボール部女子が準優勝し、卓球部男子、柔道部女子が第3位に入賞しました。個人戦では、バドミントン部女子の二宮花子(4年)とソフトテニス部女子の田中里実(4年)・古田修子(4年)ペアが優勝し、柔道部女子63kg級の長畑真帆(3年)、バドミントン部女子の二宮理栄(2年)、ソフトテニス部女子の横山さくら(1年)・小林未夢(1年)ペアが準優勝しました。ほかに多くの競技で上位に入賞しました。

また、書道部の槇本理沙(3年)が書道の全国大会といわれる日本学書展(応募作品8,000点以上)において、第1位となる奈良県知事賞(漢字の部)を受賞しました。吹奏楽部は前年度に引き続き、奈良県吹奏楽コンクール高校小編成の部で金賞を、関西吹奏楽コンクール高校小編成の部で銀賞を受賞しました。ほかには、全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会に高見恵実(4年)が奈良県代表として出場し、厚生労働省職業能力開発局長賞を受賞、公益財団法人奈良県人権文化財団「おもいやり」ショートレター中学・高校

の部（応募 1,166 作品）で佐藤幸成（2 年）が最優秀賞を受賞しました。

寮関係については、さおとめ寮では、消火用連結送水管の耐圧検査を行い、一部修理工事を行いました。

農事部については、5 月 10 日に種智院大学臨床宗教師養成講座の受講生 10 名が、他宗教研修の訪問先として、農事部で研修を行いました。農作物関係では、「御供」用の水稲、教会本部への日々の御供物、お節会の水菜、炊事本部で活用いただけるような各種野菜を季節に応じて栽培しました。また、教内各施設やその周辺で飾られる観葉植物や花卉類の育成・管理を行いました。

【天理中学校】

教祖百三十年祭を終えて新たなる塚へと進む本年度は、学校長から『一生懸命にやろうとする心』『生活の基礎基本・基本的生活習慣を身につけよう』という 2 つのことを、この 1 年心において学校生活を送ろう」と全校生徒に呼びかけ、さまざまな学校生活の場面で繰り返して伝え、日々の学校生活をすすめました。運動会や音楽会等大きな学校行事が終わった後半は、「掃除」に力を入れて、個々の心の成長をすすめる努力を重ねていきました。

学校全体としては、「毎朝の学校参拝」や「ひのきしん活動」に、生徒・教職員がともに勇んで意欲的に取り組みました。また、「お願いづとめ」や、教職員による「おさづけの取り次ぎ」等、意識の高まりとともに積極的な実践が学校生活の多くの場面で見られました。今後も、教職員自らが「ようぼく」であるという自覚をしっかりと持ち努力を重ねたいと考えています。

授業内容の充実や教員の資質向上については、外部講師を招いて行う公開授業が 5 年目となり、本年度は、2 学期に「理科」の公開授業とそれに対して指導・助言をいただく研修を実施しました。前年度と同様に、奈良県・天理市教育委員会の指導主事も参加していただいたの研修となりました。また、県や市の「研修講座」や「授業研修」へも参加しました。

学校生活については、前年度同様に、「いじめのない学校生活をめざす」ということを重点目標に掲げて取り組みました。いじめに関するアンケートを実施する中で見えてきた問題点について、各クラスや学年、生徒指導部会で細かな点まで見逃さずに対応できるよう心掛けるとともに、問題が起こった際には、学校全体が組織として動くよう心掛け、取り組みました。今後も、教職員のいじめに対する「絶対に許さない」という意識をしっかりと持って指導にあたります。また、「礼儀正しい規律のある学校」として、まだまだやり切れていない部分を学校全体として見逃さず、教職員一人ひとりが厳しさを持って取り組んでいけるよう努力します。

学習面については、各学年が朝の会の時間を使って、読書に取り組むことで、1 時間目から真剣に落ち着いて授業に臨みました。次年度もこのことを継続して、生徒一人ひとりの学習への意識を高め学力を向上させていくことを目標に、基礎基本に重点をおいた指導の徹底に取り組めます。

高校入試については、多くの生徒が希望する進路を開拓実現するとともに、管内の高等学校との連携をさらに推し進め、個々の徳分を生かせる進路開拓ができるよう進路指導を充実させました。

不登校傾向の生徒やオアシスルームに入る生徒、また、近年増加傾向にある、心に問題を抱える生徒たちへのケアについては、教育相談委員を中心に、各担任や学年、養護教諭やカウンセラー、天理大学の大学院生であるオアシスフレンドとの連携を密にしながら状況把握に努め、カウンセリングにつなげる等のサポートを行いました。また、担任や副担任の家庭訪問も必要に応じて繰り返し実施しました。特別支援教育については、その対象生徒への対応について考えることが多くあり、今後も継続して取り組む必要があることを確認しました。

部活動については、ラグビー部、飛込部、柔道部、水泳部、野球部が全国大会へ出場しました。その中で、水泳部が全国中学校水泳競技大会において、女子 400m メドレーリレーで優勝しました。また、文化系の部活動では、弦楽部が 3 年ぶりにこども音楽コンクールにおいて文部科学大臣賞を受賞しました。

【天理小学校】

本年度は、新任教員 4 名、新入児童 107 名を加え、始まりました。教祖百三十年祭での真柱様のお言葉を指針に学校運営を推進しました。「道の後継者の育成」の一端を本校の教育を通して担わせていただいていることを、教職員一人ひとりが心に刻み、教祖の教えに基づいて児童たちの育成に努めてまいりました。「教義」「信条」の授業はもとより、学校行事、学級活動等、学校生活のあらゆる機会を通して、親神様の思し召し、教祖の親心を児童に伝え、この御教えを身に行えるように取り組みました。

前年度と大きく変わった点は、校務分掌に「特別支援部」を設け、不十分であるが組織的・計画的に特別支援を要する児童の支援体制を新たに立ち上げたことです。

学習指導については、基礎基本の定着のため、各教科、各学年の重点目標をそれぞれ掲げ、日々の授業を展開しました。

職員研修計画については、大テーマ「信条教育の実践」、中テーマ「お道の教えを通して、児童の心を育てる」、「児童の学力を育てる」、「児童に生きる力を身に付けさせる」とし、さらに 6 つの小テーマを設け、多方面での研修を実施してきました。

教職員の学校評価・自己点検と保護者アンケートを実施しました。

生活指導については、本年度初めての試みとして、電車通学の児童の登校指導を行いました。各学期初めに 3 日間から 4 日間、前裁駅、二階堂駅、長柄駅にそれぞれ 3 名から 4 名の教員が出向き、安全に公共交通機関を利用する時のマナーを重点に指導を行いました。

施設・設備面については、北庭岩石園、運動場西側ネットフェンス、体育館床、運動会入場門等の改修や補修を行いました。

そのほか、第 4 回全国小・中学校リズムダンスふれあいコンクール規定曲小学生部門に第 3 学年 1 組が出場し、見事文部科学大臣賞（優勝）を受賞しました。

【天理幼稚園】

天理幼稚園創立 90 周年と教祖百三十年祭を終え、改めて将来のようぼくを育てるという創立の精神を心に納め、園児たちにとって良き手本となるよう一手一つに勇んで務めさせていただきました。

教育内容については、年間を通して、年齢の枠を超えてともに学び合い成長していくこ

とを願い、年中児と年長児の異年齢交流の機会を多くもちました。回を重ねるごとに、憧れやいたわりの気持ちを持って接し、お互いに相手を思いやる気持ちが持てるようになりました。

特別な支援を要する園児に対しては、学校法人天理大学健康管理室教育心理相談室と連携を取り、必要に応じて巡回相談を依頼し、専門的な立場からの所見や助言を参考にし、全教職員が共通理解のもと援助できるようにしました。また、個別の指導計画・支援計画を作成し、課題を明確にして生涯にわたる支援につなげられるよう努めました。

教育研修については、文部科学省の幼稚園教育理解推進事業の研究課題に基づいて、園内研修や協議を積み重ねました。また、毎日全教職員で保育の振り返りをする時間を確保し、園児たちの興味や発達に即した環境構成であったか、園児たちにとって意味のある活動になっていたか等を話し合い、記録に写真を添付し視覚的にも共通理解ができるようにしました。

保護者との連携については、育友会主催の行事では役員の方の負担が大きくなるよう教職員も役割を担い、少しでも役員の負担が軽減できるようにしました。保護者への通知には、発信する内容、時期等を吟味し、できるだけ具体的な情報を伝えるよう努めました。また、ホームページや掲示板には写真を多く取り入れ、園の様子をよりわかりやすく保護者へ提供し、より理解いただけるようにしました。また、園児それぞれについても、体調変化やその日の園での様子を詳細に電話で報告する等、家庭との連携を密にするよう心掛けました。

保護者アンケートを含んだ学校評価を実施しました。どちらも高評価でしたが、寄せられた意見や要望については見直しや改善に努めさせていただくことを、3月の育友会総会で報告しました。

安全対策については、防犯カメラを園児通用門に向けて1台、東門に向けて1台、園庭の総合遊具と西側フェンスに向けて1台の計3台を設置しました。

環境面については、専門業者による園庭の全遊具の安全点検を行いました。また、園舎や遊具類の老朽化に伴い、園舎手洗い場、園児通用門、保育室ロッカーのペンキ塗り直しや、園児通用門の雨樋、昇降口通路の腐食部分、テラスの床、運動場側溝等の修理や手入れを行いました。

3. 財務の概要

(1) 平成 28 年度決算の概要

平成 28 年度決算について、予算と対比してその概要を報告します。

◆ 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度における教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容、並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。すべての収支内容を明らかにするとは、実際の収入・支出に限らずその会計期間に入金又は出金すべき額、すなわち未収入金や未払金も収入・支出に含め、授業料免除等のお金の動きが実際にはない活動も含めることとなります。また、支払資金のてん末とは、支払資金の前年度末残高、入金、出金及び年度末残高を明らかにすることです。従って収入には前年度繰越支払資金を含めて計算し、支出には翌年度繰越支払資金を含めて計算することになり、収入の部合計と支出の部合計は一致します。

資金収支計算書は企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書に近いものですが、個々の収入金額、支出金額は前受金、未収入金、未払金、前払金等で処理した費用も含まれていますので、必ずしもキャッシュ・フローとはなっていません。しかし、それら前受金等を調整する「調整勘定」を設けることにより、総額としてはキャッシュ・フローを示しています。

(単位：千円)

●収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	3,656,160	3,657,481	△ 1,321
手数料収入	63,692	66,501	△ 2,809
寄付金収入	2,616,900	2,618,825	△ 1,925
補助金収入	1,139,682	1,139,282	400
資産売却収入	1,700	1,709	△ 9
付随事業・収益事業収入	13,905	14,334	△ 429
受取利息・配当金収入	25,590	24,804	786
雑収入	249,971	253,856	△ 3,885
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	455,525	483,241	△ 27,716
その他の収入	881,680	886,650	△ 4,970
資金収入調整勘定	△ 677,705	△ 668,948	△ 8,757
前年度繰越支払資金	4,733,346	4,733,346	
収入の部合計	13,160,446	13,211,081	△ 50,635

●支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	5,463,084	5,464,045	△ 961
教育研究経費支出	1,483,412	1,353,114	130,298
管理経費支出	384,435	340,521	43,914
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	377,200	382,952	△ 5,752
設備関係支出	311,569	328,507	△ 16,938
資産運用支出	404,210	404,404	△ 194
その他の支出	971,020	982,332	△ 11,312
資金支出調整勘定	△ 612,750	△ 640,190	27,440
翌年度繰越支払資金	4,378,266	4,595,396	△ 217,130
支出の部合計	13,160,446	13,211,081	△ 50,635

収入の部では、学生生徒等納付金収入は約 132 万円の収入超過の 36 億 5748 万円となりました。手数料収入は予算に対して 280 万円増額となっています。寄付金収入は宗教法人天理教より 26 億円、その他の寄付金は 100%出資の事業会社「キャンパスサポート天理」の受配者指定寄付金、使途指定寄付金及び一般寄付金を合わせて 1883 万円ありました。補助金収入は国庫補助金収入が私立大学等経常費補助金の増減率の配点の変更になったことにより減額見込みを下回り 5 億 1976 万円となりました。地方公共団体補助金収入は見込みを上回り、予算額より 4674 万円増額の 6 億 1953 万円となり、補助金合計は 11 億 3928 万円となりました。受取利息・配当金収入は見込みを下回り 2480 万円となっています。雑収入は、施設設備利用料収入が見込みを下回り 2308 万円、私立大学退職金財団等交付金収入が予算どおり、また、その他の雑収入が 101 万円見込みを上回ったことなどにより、予算に対して 389 万円の増加となりました。前年度繰越支払資金等を加えた収入の部合計では 132 億 1108 万円となりました。

支出の部では、人件費支出は予算を 96 万円上回り 54 億 6404 万円となりました。前年度より教員人件費は 1724 万円減額し、職員人件費は 1755 万円増額しました。退職金が減額したため、人件費合計では、前年度より 3 億 2679 万円減額しています。教育研究経費支出、管理経費支出、施設関係支出、設備関係支出に計上された主な工事、備品等の整備は以下のとおりです。

施 設	内 容
大 学	◇体育学部クラブハウス新築及び周辺工事 ◇体育学部 6 号棟屋根・外壁・窓改修工事 ◇心光館空調設備更新工事 ◇心光館 1 階トイレ改修及び身障者用トイレ新設工事 ◇研究棟空調設備更新工事 ◇3・4 号棟前敷地ブロック舗装工事 ◇阪神甲子園球場 広告料 ◇3 号棟 3 階教室机・椅子購入 ◇8 号棟トイレ改修工事 ◇前栽ふるさと寮 敷地一体化及びフェンス工事 ◇白川グラウンド照明 LED 化工事 ◇天理プール配 管改修工事 ◇大学院宗教文化研究科開設備品購入
図 書 館	◇業務用 O P A C サーバー等入替 ◇特別本「梁塵秘抄口伝集」「La Chine et le Japon au temps Present. (中国と日本)」「賦初何連歌」「敵討両輛車 山東京伝草稿」「花頂 山中高德院発句会時雨句稿」購入 ◇国宝「類聚名義抄」保存修理

施設	内 容
参考館	◇考古美術資料(鉄製冑)保存処理 ◇温湿度制御不具合修繕工事
高等学校	◇南グラウンド人工芝敷設工事 ◇第2柔道場屋根葺替及び修繕・周辺剪定工事 ◇学納金システム開発 ◇校舎・体育館耐震診断 ◇北寮舎監宅改修工事 ◇北グラウンドクラブ用プレハブ設置工事 ◇別館西面外壁修理工事 ◇教員用机・椅子購入 ◇陽心寮地質調査 ◇農事部トラクター購入 ◇陽心寮電話交換システム更新
中学校	◇管理人棟解体工事 ◇生徒用机、椅子購入 ◇教室棟・講堂・体育館耐震補強計画策定 ◇校舎西側外部階段改修工事 ◇防犯カメラシステム更新
小学校	◇グラウンド西フェンス改修工事 ◇校舎耐震補強基本計画策定 ◇電話交換機更新

資金支出は合計で132億1108万円となり、そのうち翌年度繰越支払資金は45億9540万円となりました。

【用語(科目)の説明】

資金収入の部

- ① 学生生徒等納付金収入……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料収入……………入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金収入……………宗教法人天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等
- ④ 補助金収入……………私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等
- ⑤ 資産売却収入……………固定資産の売却収入、有価証券の売却収入
- ⑥ 付随事業・収益事業収入…図書館、参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑦ 受取利息・配当金収入…預金、有価証券等の利息、配当金等
- ⑧ 雑収入……………施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑨ 借入金等収入……………日本私立学校共済・振興事業団、金融機関よりの借入れ収入
- ⑩ 前受金収入……………翌年度入学の学生、生徒等に係る学生生徒等納付金収入
- ⑪ その他の収入……………引当特定資産の取崩収入、前会計年度末における未収入金の当該会計年度における収入、
預り金収支を純額で表示し、預り金支払額を超える預り金受入収入
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の支払額を超える仮払金回収収入
- ⑫ 資金収入調整勘定……………当該会計年度期末における未収入金、前会計年度の前受金

資金支出の部

- ① 人件費支出……………教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職金
- ② 教育研究経費支出……………教育研究のために要する経費
- ③ 管理経費支出……………教育研究経費以外の経費
- ④ 借入金等利息支出……………借入金に係る利息支出
- ⑤ 借入金等返済支出……………借入金の返済支出
- ⑥ 施設関係支出……………土地、建物、構築物等固定資産取得のための支出(資産運用目的のための取得を除く)
- ⑦ 設備関係支出……………耐用年数が1年以上の10万円以上の備品、長期間にわたって使用保存する書籍等、
車両の取得のための支出
- ⑧ 資産運用支出……………有価証券購入のための支出、引当特定資産への繰入支出
- ⑨ その他の支出……………前会計年度末における未払金の当該会計年度における支出
預り金収支を純額で表示し、預り金受入額を超える預り金支出
仮払金収支を純額で表示し、仮払金の回収額を超える仮払金支出
- ⑩ 資金支出調整勘定……………当該会計年度期末における未払金

◆ 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、学校法人会計基準の改正により平成27年度より作成が義務づけられました。この計算書は、資金収支を「教育活動」「施設整備等活動」「その他の活動」に区分し、活動区分ごとの収入、支出及び収支差額を表示することで資金の流れを明らかにするものです。「教育活動による資金収支」では、学校法人の本業である教育活動によりどれだけの資金が獲得できたのかがわかります。「施設整備等活動による資金収支」では、当年度に施設関係、設備関係の取得がどのくらいあったのか、財源が何であったのかがわかります。「教育活動」と教育活動をインフラ面から支える「施設整備等活動」の資金収支差額の合計は学校法人の活動における中心的な収支内容を明らかにします。また、「その他の活動による資金収支」では、借入金の状況、資金運用の状況等、主に財務活動について把握することができます。

(単位：千円)

教育活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	3,657,481	人件費支出	5,464,045
手数料収入	66,501	教育研究経費支出	1,353,114
特別寄付金収入	2,618,361	管理経費支出	340,105
一般寄付金収入	154		
経常費補助金収入	1,139,282		
付随事業収入	14,334		
雑収入	249,318		
教育活動資金収入計(A)	7,745,431	教育活動資金支出計(B)	7,157,264
		差引(A-B=C)	588,167
		調整勘定等(D)	△ 13,776
		教育活動資金収支差額(C+D=①)	574,391

施設設備等活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
施設設備寄付金収入	310	施設関係支出	382,952
施設設備売却収入	26	設備関係支出	328,507
校舎等建設引当特定資産取崩収入	0	校舎等建設引当特定資産繰入収入	4,387
施設整備等活動資金収入計(a)	336	施設整備等活動資金支出計(b)	715,846
		差引(a+b=c)	△ 715,510
		調整勘定等(d)	△ 22,045
		施設整備等活動資金収支差額 (c+d=②)	△ 737,555

小計(教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額)(①+②=③)	△ 163,164
-------------------------------------	-----------

その他の活動による資金収支			
収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
有価証券売却収入	1,684	有価証券購入支出	0
退職給与引当特定資産取崩収入	400,000	第3号基本金引当特定資産繰入支出	17
修学旅行費等預り金受入収入	3,530	退職給与引当特定資産繰入支出	400,000
敷金・保証金回収収入	1,346	預り金支払い支出	1,303
仮払金回収収入	1,055	立替金支払い支出	3,441
小計	407,615	修学旅行費等預り預金への繰入支出	3,530
受取利息・配当金収入	24,804	敷金・保証金支払支出	3,036
過年度修正収入	4,538	小計	411,327
その他の活動資金収入計(ア)	436,957	過年度修正支出	416
		その他の活動資金支出計(イ)	411,743
		差引(ア-イ=ウ)	25,214
		調整勘定等(エ)	0
		その他の活動資金収支差額 (ウ+エ=④)	25,214

支払資金の増減額（小計+その他の活動資金収支差額）(③+④)	△ 137,950
前年度繰越支払資金	4,733,346
翌年度繰越支払資金	4,595,396

平成 28 年度決算では、教育活動資金収支差額は 5 億 7439 万円の収入超過、施設設備等活動資金収支差額は 7 億 3756 万円の支出超過になり、教育活動資金収支差額と施設設備等活動資金収支差額の合計は 1 億 6316 万円の支出超過になりました。また、その他の活動資金収支差額は 2521 万円の収入超過になっています。これらにより、翌年度繰越支払資金は 1 億 3795 万円減額し、45 億 9540 万円となりました。

◆ 事業活動収支計算

事業活動収支計算書は、学校法人会計基準の改正により平成 27 年度より消費収支計算書に代わって作成が義務づけられました。事業活動収支計算は、当該会計年度の負債とならない収入から基本金組入額（教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な土地、建物、機器備品、図書等を取得した金額＝資産）を差し引いた事業活動収入と資産の消費や用役の対価である事業活動支出とで計算されます。したがって、資金収入には含まれない現物寄付を事業活動収入に加え、固定資産の利用を耐用年数期間での消費と認識した減価償却額は事業活動支出に該当します。また、教職員の将来の退職時に支給される退職金は用役の対価と認識され、退職給与引当金繰入額も事業活動支出に含まれます。さらに、事業活動収入及び事業活動支出は経常的活動と臨時的活動（特別活動）に区分し、経常的活動を教育研究に係る活動と教育活動外（財務活動・収益事業活動）に区分して、その収支状況を明らかにします。これら 3 区分の収支差額を合計し、基本金組入前の当年度収支差額を計算します。ここから基本金組入額を控除した当年度収支

により事業活動収入と事業活動支出の均衡の状態が明らかにされ、学校法人の経営の状況を示すことになります。

事業活動収支は企業会計における損益計算の仕組みに類似しています。(損益計算書では計上されない資本的支出が、事業活動収支計算書では基本金組入額として計上されている点が主な相違点です。)学校法人は企業と異なり収益の獲得を目的とするものではありませんので、学校法人会計には損益の計算という概念はありません。教育研究内容に見合った適正な収入を得て、教育研究活動の機会と場を永続的に提供することを目的としています。事業活動収支計算の事業活動収入と事業活動支出が長期的にはつり合い、必要な資産が維持されることが健全な学校経営として望まれるところです。

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		学生生徒等納付金	3,656,160	3,657,481	△ 1,321
		手数料	63,692	66,501	△ 2,809
		寄付金	2,616,900	2,618,515	△ 1,615
		経常費等補助金	1,139,682	1,139,282	400
		付随事業収入	13,905	14,334	△ 429
		雑収入	249,971	249,318	653
		教育活動収入計	7,740,310	7,745,431	△ 5,121
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		人件費	5,463,084	5,434,782	28,302
		教育研究経費	2,178,390	2,054,702	123,688
		管理経費	423,162	379,207	43,955
		徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	8,064,636	7,868,691	195,945		
教育活動収支差額		△ 324,326	△ 123,260	△ 201,066	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		受取利息・配当金	25,590	24,804	786
		その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	25,590	24,804	786	
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0		
教育活動外収支差額		25,590	24,804	786	
経常収支差額		△ 298,736	△ 98,456	△ 200,280	
特別収支	事業活動収入の部	科目	予算	決算	差異
		資産売却差額	0	26	△ 26
		その他の特別収入	12,500	19,964	△ 7,464
	特別収入計	12,500	19,990	△ 7,490	
	事業活動支出の部	科目	予算	決算	差異
資産処分差額	21,700	10,569	△ 11,131		

	その他の特別支出	0	416	△ 416
	特別支出計	21,700	10,985	△ 10,715
	特別収支差額	△ 9,200	9,005	△ 18,205
	基本金組入前当年度収支差額	△ 307,936	△ 89,451	△ 218,485
	基本金組入額合計	△ 606,500	△ 441,632	△ 164,868
	当年度収支差額	△ 914,436	△ 531,083	△ 383,353
	前年度繰越収支差額	△ 12,006,054	△ 11,548,117	△ 457,937
	基本金取崩額	0	85,000	△ 85,000
	翌年度繰越収支差額	△ 12,920,490	△ 11,994,200	△ 926,290

(参考)

事業活動収入計	7,778,400	7,790,225	△ 11,825
事業活動支出計	8,086,336	7,879,676	206,660

【用語（科目）の説明】

教育活動収支

- ① 学生生徒等納付金……授業料、入学金、実験実習料、維持費、教育設備充実費等
- ② 手数料……入学検定料、試験料、証明手数料等
- ③ 寄付金……宗教法天理教よりの回付金、使途指定寄付金、一般寄付金等（施設設備寄付金を除く）
- ④ 経常費等補助金……私立大学等経常費補助金、奈良県私立学校経常費補助金等（施設整備補助金を除く）
- ⑤ 付随事業収入……図書館、参考館の事業収入、受託事業収入
- ⑥ 雑収入……施設設備の賃貸料収入、私立大学退職金財団等交付金収入、その他の雑収入
- ⑦ 人件費……教員・職員に支給する本俸、期末手当及びその他の手当並びに所定福利費
役員報酬、退職給与引当金組入額
- ⑧ 教育研究経費……教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑨ 管理経費……教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑩ 徴収不能額等……回収不能が確定となった未収入金等の金銭債権額

教育活動外収支

- ① 受取利息・配当金……預金、有価証券等の利息、配当金等
- ② その他の教育活動外収入……受取利息・配当金以外の教育活動外収入
- ③ 借入金等利息……借入金に係る利息支出
- ④ その他の教育活動外支出……借入金等利息以外の教育活動外支出

特別収支

- ① 資産売却差額……資産売却収入がその帳簿残高を超えた場合の超過額
- ② その他の特別収入……施設設備拡充のための寄付金、施設設備の現物寄付受領額、施設設備拡充のための補助金
過年度修正による当年度収入
- ③ 資産処分差額……固定資産を廃棄した場合の除去損
- ④ その他の特別支出……過年度修正による当年度支出、災害損失

基本金組入額合計……学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を保持するために維持すべきものとして、
当該年度に組み入れた基本金額（固定資産、奨学基金等）

教育活動収支では、教育活動収入計が予算比 0.07%増の 77 億 4543 万円（前年度 2.48% <1

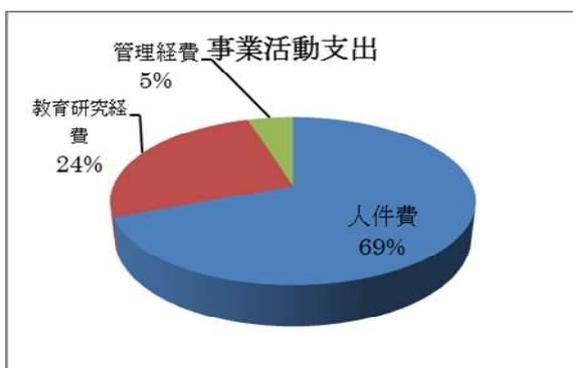
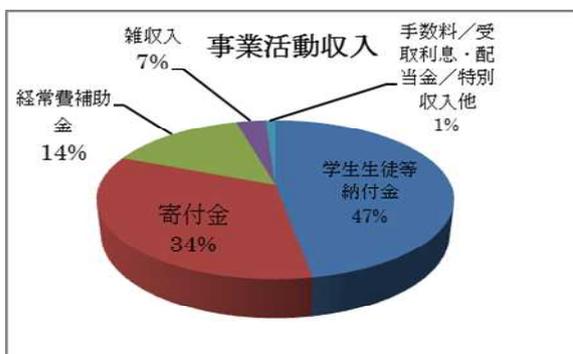
億 9735 万円) の減) となり、教育活動支出計が予算比 2.43%減の 78 億 6869 万円 (前年度 3.67% (2 億 9971 万円) の減) となりました。人件費には退職給与引当金繰入額 3 億 2488 万円を含み、資金収支計算での人件費支出との差額は 2926 万円となっています。教育研究経費に 6 億 1831 万円、管理経費に 2534 万円の減価償却費を含んでいます。教育活動収支差額は予算比 62%減の 1 億 2326 万円の支出超過となっています。

教育活動外収支では、教育活動外収入計が予算比 3.1%減の 2480 万円 (前年度 16.7% (497 万円) の減) となりました。借入金等はないので教育活動外支出はありません。教育活動外収支差額は予算に対して 79 万円の減額となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合計した経常収支差額は 9846 万円の支出超過となりました。

特別収支では、特別収入計が予算比 59.92%増の 1999 万円 (前年度 15.44% (365 万円) の減) となり、特別支出計が予算比 49.38%減の 1098 万円 (前年度 55.88% (1391 万円) の減) となりました。その他の特別収入に現物寄付として大学後援会等より図書を受贈、文部科学省科学研究費補助金による備品購入、構築物として高等学校育友会よりポール型時計等、計 1512 万円を計上しています。特別収支差額は予算比 197.88%増の 901 万円の収入超過となりました。

当該会計年度の事業活動収入計と事業活動支出計の差額 (基本金組入前当年度収支差額) は 8945 万円の支出超過となり、基本金組入額合計 4 億 4163 万円 (予算比 27.18%減) を控除した当年度収支差額は 5 億 3108 万円の支出超過額 (前年度は 5 億 730 万円の支出超過額) となりました。また、学校法人会計基準の一部を改正する法令 (平成 25 年 4 月 22 日 文部科学省令第 15 号) に基づき、第 4 号基本金の算定式を変更しました。新算定式により計算した差額 8500 万円を取り崩しました。前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は 119 億 9420 万円となりました。

《事業活動収入及び事業活動支出の構成比》



◆ 貸借対照表

貸借対照表は、当法人の財政状態を明示するために、年度末に保有するすべての、資産、負債、基本金および繰越収支差額を前会計年度末の額と比較して一覧表示したものです。資産の部は、貸借対照表の借方に表示され、学校法人天理大学に投入された資金がどのように使われているかを表示します。貸方に表示される負債の部、純資産の部はその資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資金（基本金、繰越収支差額）で賄われているか、すなわち資金の源泉を表示しています。

企業会計という資本という概念がないので、基本金の部（基本金として組み入れている資産）と繰越収支差額（事業活動収支計算において事業活動収入から基本金組入額を控除し、事業活動支出を差し引いた差額の会計年度末までの累計額）が貸方に計上されることが企業会計のものと異なる点です。

記載金額は期末時点の財産価値ではなく取得した当初の価額を基準としています（取得原価基準）。また、時の経過によりその価値を減少させる固定資産（建物、機器備品等）の貸借対照表計上額は、減価償却をおこなった後の金額となります。

（単位：千円）

●資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	26,073,213	26,092,602	△ 19,389
有形固定資産	24,207,692	24,231,492	△ 23,800
特定資産	1,442,144	1,437,739	4,405
その他の固定資産	423,377	423,371	6
流動資産	4,995,857	5,432,783	△ 436,929
資産の部合計	31,069,067	31,525,385	△ 456,318

●負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	956,871	986,133	△ 29,262
流動負債	1,370,465	1,708,070	△ 337,605
負債の部合計	2,327,336	2,694,203	△ 366,867

●純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	40,735,931	40,379,300	356,631
第1号基本金	40,028,781	39,587,166	441,615
第3号基本金	142,150	142,134	16
第4号基本金	565,000	650,000	△ 85,000
繰越収支差額	△ 11,994,200	△ 11,548,118	△ 446,082
純資産の部合計	28,741,731	28,831,182	△ 89,451
負債及び純資産の部合計	31,069,067	31,525,385	△ 456,318

(単位：千円)

資金収支計算書					
●収入の部					
科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
学生生徒等納付金収入	3,591,305	3,761,406	3,761,592	3,673,659	3,657,481
手数料収入	76,454	69,896	69,806	70,616	66,501
寄付金収入	2,909,550	2,813,579	2,749,941	2,644,668	2,618,825
補助金収入	1,210,555	1,186,075	1,226,230	1,145,208	1,139,282
資産売却収入	140,000	0	185	100,077	1,709
付随事業・収益事業収入	10,658	9,250	11,266	14,613	14,334
受取利息・配当金収入	25,630	25,043	25,482	29,779	24,804
雑収入	322,055	378,590	418,857	406,336	253,856
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	498,605	472,825	457,796	485,180	483,241
その他の収入	374,870	258,287	396,543	1,271,955	886,650
資金収入調整勘定	△ 780,319	△ 819,890	△ 1,003,160	△ 938,514	△ 668,948
前年度繰越支払資金	4,698,349	4,558,985	4,774,108	5,120,265	4,733,346
収入の部合計	13,077,712	12,714,046	12,888,646	14,023,842	13,211,081

●支出の部					
科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人件費支出	5,813,866	5,860,258	6,095,073	5,790,832	5,464,045
教育研究経費支出	1,189,445	1,452,858	1,356,565	1,302,203	1,353,114
管理経費支出	325,683	345,677	367,600	370,250	340,521
借入金等利息支出	2,705	1,123	0	0	0
借入金等返済支出	100,000	100,000	0	0	0
施設関係支出	320,736	54,416	23,737	279,668	382,952
設備関係支出	194,447	230,694	200,706	207,666	328,507
資産運用支出	100,467	1,402	1,028	700,488	404,404
その他の支出	1,316,192	844,814	957,790	1,610,411	982,332
資金支出調整勘定	△ 844,814	△ 951,304	△ 1,234,118	△ 971,022	△ 640,190
次年度繰越支払資金	4,558,985	4,774,108	5,120,265	4,733,346	4,595,396
支出の部合計	13,077,712	12,714,046	12,888,646	14,023,842	13,211,081

(単位：千円)

事業活動収支計算書							
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		学生生徒等納付金	3,591,305	3,761,406	3,761,592	3,673,658	3,657,481
		手数料	76,454	69,896	69,806	70,616	66,501
		寄付金	2,909,550	2,813,579	2,746,368	2,632,860	2,618,515
		経常費等補助金	1,196,887	1,164,743	1,206,179	1,145,208	1,139,282
		付随事業収入	10,658	9,250	11,266	14,613	14,334
		雑収入	322,054	378,590	589,088	405,830	249,318
		教育活動収入計	8,106,908	8,197,464	8,384,299	7,942,785	7,745,431
	事業活動支出の部	科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		人件費	5,913,750	5,854,909	6,007,040	5,779,940	5,434,782
		教育研究経費	1,885,261	2,155,173	2,047,850	1,981,942	2,054,702
		管理経費	361,218	380,013	400,150	406,520	379,207
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	8,160,229	8,390,095	8,455,040	8,168,402	7,868,691
教育活動収支差額		△ 53,321	△ 192,631	△ 70,741	△ 225,616	△ 123,260	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		受取利息・配当金	25,630	25,043	25,482	29,779	24,804
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	25,630	25,043	25,482	29,779	24,804
	事業活動支出の部	科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		借入金等利息	2,705	1,123	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	2,705	1,123	0	0	0
	教育活動外収支差額		22,925	23,920	25,482	29,779	24,804
	経常収支差額		△ 30,395	△ 168,711	△ 45,259	△ 195,837	△ 98,456
特別収支	事業活動収入の部	科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		資産売却差額	5,000	0	185	77	26
		その他の特別収入	23,713	37,468	36,268	23,564	19,964
		特別収入計	28,713	37,468	36,453	23,641	19,990
	事業活動支出の部	科 目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		資産処分差額	45,855	24,504	59,330	24,899	10,569
		その他の特別支出	0	0	0	0	416
		特別支出計	45,855	24,504	59,330	24,899	10,985
特別収支差額		△ 17,142	12,964	△ 22,877	△ 1,258	9,005	
基本金組入前当年度収支差額		△ 47,538	△ 155,747	△ 68,136	△ 197,096	△ 89,451	
基本金組入額合計		△ 451,833	△ 104,722	△ 201,936	△ 310,202	△ 441,632	

当年度収支差額	△499,371	△260,469	△270,072	△507,298	△531,083
前年度繰越収支差額	△10,010,908	△10,510,279	△10,770,748	△11,040,820	△11,548,117
基本金取崩額	0	0	0	0	85,000
翌年度繰越収支差額	△10,510,279	△10,770,748	△11,048,820	△11,548,118	△11,994,200

(参考)

事業活動収入計	8,161,251	8,259,975	8,446,234	7,996,205	7,790,225
事業活動支出計	8,208,789	8,415,722	8,514,370	8,193,301	7,879,676

(単位：千円)

貸借対照表					
●資産の部					
科 目	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末
固定資産	27,088,166	26,628,652	26,254,794	26,092,603	26,073,213
有形固定資産	25,309,958	24,849,042	24,474,156	24,231,492	24,207,692
特定資産	1,654,840	1,656,241	1,657,268	1,437,740	1,442,144
その他の固定資産	123,368	123,369	123,370	423,371	423,377
流動資産	4,820,726	5,102,428	5,663,159	5,432,782	4,995,854
資産の部合計	31,908,892	31,731,080	31,917,953	31,525,385	31,069,067
●負債の部					
科 目	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末
固定負債	1,090,408	1,085,060	997,026	986,133	956,871
流動負債	1,566,322	1,549,606	1,892,649	1,708,070	1,370,465
負債の部合計	2,656,730	2,634,666	2,889,675	2,694,203	2,327,336
●純資産の部					
科 目	24年度末	25年度末	26年度末	27年度末	28年度末
基本金	39,762,441	39,867,162	40,069,098	40,379,300	40,735,931
第1号基本金	38,973,223	39,076,543	39,277,451	39,587,167	40,028,781
第3号基本金	139,218	140,619	141,647	142,133	142,150
第4号基本金	650,000	650,000	650,000	650,000	565,000
繰越収支差額	△10,510,279	△10,770,748	△11,040,820	△11,548,118	△11,994,200
純資産の部合計	29,252,162	29,096,414	29,028,278	28,831,182	28,741,731
負債及び純資産の部合計	31,908,892	31,731,080	31,917,953	31,525,385	31,069,067

(3) 主な財務比率の推移

主な事業活動収支計算書関係比率と貸借対照表関係比率の過去5年間の推移を掲載し、一部の比率についてグラフにより概要を説明します。なお、学校法人会計基準改正に伴う新基準における財務比率の算式は日本私立学校振興・共済事業団が提示したものを使用し、過年度の比率も新基準の算式により計算しています。

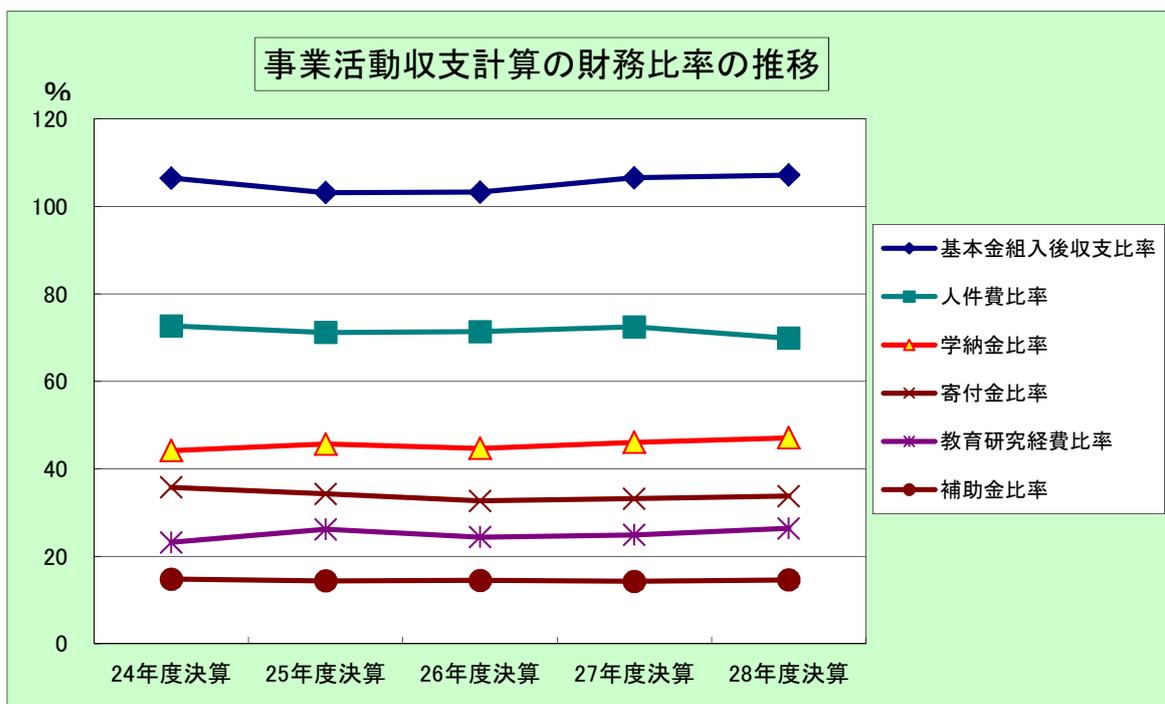
(単位：%)

事業活動収支計算書 関係比率	算式 (×100)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	72.7	71.2	71.4	72.5	69.9
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	164.7	155.7	159.7	157.3	148.6
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	23.2	26.2	24.4	24.9	26.4
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	4.4	4.6	4.8	5.1	4.9
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0	0	0	0	0
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	△0.6	△1.9	△0.8	△2.5	△1.1
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	106.5	103.2	103.3	106.6	107.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	44.2	45.7	44.7	46.1	47.1
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	35.8	34.3	32.7	33.2	33.8
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	14.8	14.4	14.5	14.3	14.6
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	5.5	1.3	2.4	3.9	5.7
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	△0.4	△2.1	△0.5	△2.5	△1.3
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	△0.7	△2.3	△0.8	△2.8	△1.6

「経常収入」＝教育活動収入計＋教育活動外収入計

「経常支出」＝教育活動支出計＋教育活動外支出計

貸借対照表関係比率	算式 (×100)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	84.9	83.9	82.3	82.8	83.9
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債}+\text{純資産}}$	91.7	91.7	90.9	91.5	92.5
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	92.6	91.5	90.4	90.5	90.7
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}+\text{固定負債}}$	89.3	88.2	87.4	87.5	87.8
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	307.8	329.3	299.2	318.1	364.5
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	8.3	8.3	9.1	8.5	7.5
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	99.7	100.0	99.9	100.0	100.0



基本金組入後収支比率は100%を恒常的に上回り、28年度では7.2ポイント上回りました。人件費比率は24年度から横ばい状態ですが、28年度は前年度から2.6ポイント下がりました。学生生徒等納付金比率（学納金比率）は1ポイント、寄付金比率は0.6ポイント上がりました。教育研究経費比率は1.5ポイント上がり増加傾向となっています。補助金収入は昨年度より減額となりましたが、事業活動収入も減額となったため、補助金比率は0.3ポイント上がりました。